

人工透析装置 生産能力2.5倍に



協和ファインテック
が生産する人工透析
装置

医療機器など製造の協和ファインテック（岡山市東区金岡西町）は、来年4月に人工透析装置の新工場を本社敷地内に設け、年間生産能力を現在の2・5倍の3千台に引き上げる。国内の大手医療機器メーカーにOEM（相手先ブランドによる生産）で供給。腎臓病患者の増加を背景に需要が拡大する東南アジアや中南米向けに出荷する。（伊東圭一）

人工透析装置は腎臓の機能を代替する医療機器。同社は血中の老廃物を除去し、血液を正しく循環させるポンプや配管、透析液の濃度計などを設計・製造し、外部調達した制御ソフトや電子基板と組み合わせて完成させる。

新工場は鉄骨一部2階延べ約970平方メートル、1階（約800平方メートル）は組み立て作業場や部品倉庫のほか、

新型装置の開発室を備える。2階は事務所などを置く。投資額は1億2千万円。

東南アジアや中南米 需要拡大対応



人工透析装置の製造現場。工場新設で生産能力を2・5倍に高める

現在は、ポンプや濃度計などを製造する工場で全工程を集約し、生産効率を高めるとともに作業場を約2倍

現在、ポンプや濃度計などを製造する工場は200台から3千台にアップさせる。既存2体に組み込む工程を本社敷地内の2工場で行っている。新工場は高操業が続いており、今後も受注増が見込めると判断。新興国の医療ニーズの高まりや、腎臓病患者の増加などで今後年平均6・2％ペースで成長し、20年には推計で938億3千万円（約11兆円）に達する見込み。

市場調査会社のグローバルインフォメーション（川崎市）によると、世界の人工透析市場は、新設の人工透析装置の売上高を15億円に引き上げたい考え。

協和ファインテックの橋本明典社長は「生産効率化で価格競争力を高めながら、各国のニーズに合った機種を開発していきたい」と話している。

同社は1955年設立。合成繊維製造装置を主力とし、2001年に人工透析装置へ参入した。資本金3700万円、売上高約22億円（15年2月期）、従業員180人（パート含む）。